



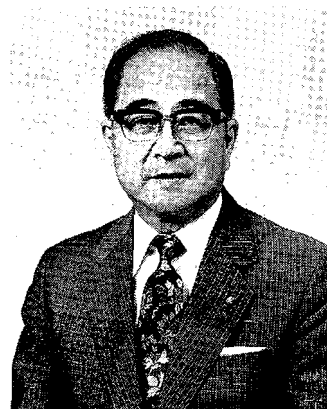
洋書輸入協会会報

Vol. 26 No. 1 (通巻296号) 1992年1月

謹んで新春の

お慶びを申し上げます

1992年 元旦



理事長 海老原熊雄

世界を大きく揺るがせながら90年代の2年目が過ぎ3年目を迎えました。湾岸戦争終結の後、ソ連のクーデター騒動、ソ連邦崩壊の危機など激動の続く中で、1991年の世界経済も停滞、下降気味に推移しました。

本年も厳しい経済環境で、順調な景気回復は充分先との見方が強いようです。本年の最大の焦点はなんといっても米国の景気回復にあります。ドイツを含む欧州経済、特に EC 統合の行方、ソ連邦の動向からも目が離せません。景気の風向きが政治がらみで変わり、我が国経済にもしばらくの間は冷たい風が吹き続けるのではないのでしょうか。

さて、依然として厳しい状況下ではありますが、我が業界も創立50周年を迎え、昨年9月には盛大な記念行事

を行うことができました。幸いにして多勢の各界のご来賓をお迎えし、160余名の協会員とともに50年の歩みを振り返り新たな決意を固め、祝賀の一時を過ごすことができました。当協会の発展に尽力された数多くの先輩諸氏に改めて敬意を表します。

戦中・戦後の激動期を経て今日に至る半世紀に、外国書籍雑誌の輸入を通して日本の文化・経済の発展に多少なりとも寄与できたことは誇るに足るべきことと信じておりますが、同時に21世紀に向け当業界をどう位置づけどう発展させていくか、重い責任を感じるところでもあります。

先頃発表された「91年度国民生活白書」にも指摘されておりますように、国民の実質的な豊かさへの願望はま

新年の挨拶	1	うちの会社は今	5	海外ニュース	6
理事会報告	2	文化厚生委員会だより		総代理店ご案内	6
Frankfurt Book Fairに参加して	2	秋の釣	6	東京の坂と橋と文明開化(20)	7
洋書輸入協会史(67)	3	第25回麻雀大会熱戦記	6	広告	8

すまず強まり、豊かさを測る指標も多面的になってきております。国民の生活も21世紀に向けて、勤勉な労働中心主義から教養娯楽重視、精神的豊かさを包みこむ暮らしに移行しつつあります。また就学人口の減少により、大学等高等教育機関もそれぞれ教育の高質化、個性創出努力の必要性に迫られています。更に高齢化社会に向けた生涯教育の開発も様々に試みられております。このような国民全体の教養のレベルアップに合わせれば、我が業界のマーケットもますます広がっていくものと予想されます。

本年も、会員の皆様の叡智とご努力によって幾多の難問を乗り越え、業界発展の年にしたいと念じております。

年頭にあたり簡単ながらご挨拶を申し上げます。

(新年懇親会 年頭挨拶より)

理事会報告

11月20日(水)

(一) 10月分収支計算・予算対比表

11月11日(月)総務委員会での検討にもとづく神田俊二氏(丸善)の報告を承認した。

(二) その他

Frankfurt Book Fair に参加して

去る10月9日から14日までの5日間、ドイツ、フランクフルト市でフランクフルト書籍展が開催された。戦後の1949年に始まったこの書籍展も今回で43回目、フェア事務局の発表によると参加国はアルバニアからジンバブエまで90ヵ国、出版社8,292社、展示タイトル346,000点、展示スペース122,000平米、期間中の入場者数は約25万人におよび、日本からも約120社の出版社、取次業者他が参加するなど文字通り世界最大のブックフェアであった。

今回のブックフェアは大きな版權売買や合併などのイベントもなく、欧米の景気後退もあって、以前のようなお祭りムードも消え、ビジネスライクで地味なフェアであったというのが参加者の多くの感想であった。日本の出版界からの参加は前年の“日本年”のイベント、展示が好評で合ったこともあり活発で、とくに日本からの電子出版関係の競演デモがひととき注目を浴びていた。

フランクフルト書籍展は本来版權の売買が中心とされているが、最近ではFax、TV会議、サテライト通信、国際宅急便の発達で、大きな版權売買は一年中を通しオフィスに居ながらにして行われており、フランクフルトで交渉されるのは残りのばかりとの極論も出ている。また、規模が大きすぎて落ち着いて商談できないとの批判も目立っている。旅費、宿泊費など参加に要する費用もかなりの金額で一体何冊の本を売ればコストが回収できるのか概嘆する出版社もあった。

しかし、短期間に効率良く多数の出版社、著作権業者、取次業者、書店が商談できるメリットは大きく、最近では、英米欧にまたがる多国籍出版社が傘下の出版社の販売戦略会議をフランクフルトに合わせるケースも増えている。また、普段日本で忙しくて会えない人とフランクフルトで旧交を温めることも少なくない。

驟然とした会場、昼食もとれない程の商談の連続、連夜のレセプション・パーティに悲鳴をあげ、一日も早くフェアを切上げ、休暇に入りたい、今年を最後にもうフェアからは引退すると公言している多くの出版人が翌年もやはり参加している。Frankfurt Book Fairには駆け出しから80才の老練な出版人までその心をとらえて離さない魔術的な魅力があるように思う。(T. N.記)



洋書輸入協会史 (67)

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

74 昭和34 (1959) 年度 (s34.4月～s35.3月) の規約改正、理事改選、新入会員、退会者など(前号よりの続き)

74.4 新入会員

(1) ドナルド・ムア社 千代田区神田美土代町 6

代表者 斉藤純生

資本金 104,001海峽ドル

従業員 3名 創立 昭和33 (’58) 年2月4日

昭和34 (’59) 年7月28日付で、入会承認の件が同社に通知された。

同社については、洋書輸入協会会報、Vol. 3 No.11(昭和44年11月号) の4ページに紹介されている。

(2) 北澤本店 千代田区神田神保町2—5

代表者 北澤龍太郎

創立 明治36 (1903) 年

昭和35 (’60) 年3月2日付、JBIA No. 94 により会員へ通知。

同社については、洋書輸入協会会報 Vol. 2 No. 8(昭和43年8月号) の5ページに紹介されている。

74.5 退会者

(1) 川瀬書店

昭和34 (’59) 年5月21日付、JBIA No. 75 により退会が会員に通知された。同社は、名古屋市中区に所在し、昭和29 (’54) 年3月の入会であった。

(2) 東京国際学術文献社 (除名)

この社も同じ昭和34 (’59) 年5月21日付、JBIA No. 75 により退会が通知された。ただし同社(社長 長塩清吾氏) は、同年5月20日の洋書輸入協会総会において、会費滞納その他の理由で除名処分を議決されている。その他の理由とは、海外の仕入先に仕入代金を支払わず、日本及び洋書輸入協会とその会員の信用を失墜したことなどである。

(3) ユナイテッド社

昭和34 (’59) 年9月25日の理事会において、同社(代表者 アルチニ・文子氏) より退会の届けが出された旨の報告があった。同社は以前にドイツの写真雑誌などの総代理店権を持っていたことがある。

74.6 会員数

昭和33 (’58) 年度末 (s34.3月末) 現在の会員数が52社であり、昭和34 (’59) 年度中の新入会員が2社、退会者が3社のため、昭和34 (’59) 年度末 (s35.3月末) の会員数は51社である。

74.7 新築、移転など

(1) 北尾書籍貿易株式会社

昭和34 (’59) 年4月7日付、JBIA No. 70により、北尾書籍貿易株式会社が、大阪市西区の旧住所より、南区安堂寺橋通り 4—23 佐野屋橋ビル2階へ移転し、また東京事務所を東京都大田区仲蒲田 2—8(所長 野田耕平氏) に開設した旨会員に通知されている。

(2) 白水社

昭和34 (’59) 年5月11日付、JBIA No. 72により、同社が千代田区神田小川町 3—24へ、新社屋が落成したので移転した旨が通知されている。

(3) 福本書院

昭和34 (’59) 年9月10日の理事会の後、理事一同で本郷の福本書院を訪れ、新社屋の完成を祝っている。

(4) 三善

昭和35 (’60) 年3月2日付、JBIA No. 94 により、株式会社三善が、中央区日本橋人形町 2—1 安田生命別館5階へ移転した旨会員に通知されている。

74.8 人事消息

昭和34 (’59) 年5月8日の理事会に、教文館の新専務取締役 松野左武郎氏が出席された。

同年12月8日の懇談会に、エンデルレ社社長の子息ハンス・エンデルレ氏が出席、皆に紹介された。

74.9 協会懇親旅行

昭和34 (’59) 年9月13日(日)から翌14日(月)にかけ、栃木県の川治温泉において同業会の懇親旅行が行われた。参加者26名、浅草より東武特急ロマンスカーにて鬼怒川駅下車、遊覧バスにて鬼怒川溪谷を見物、当日夜は柏屋ホテル新館に宿泊、翌14日10:00に解散した。当日の写真が残っているので掲載する。

75 昭和34（'59）年度のその他の出来事

75.1 JBJA Book News の件

昭和34（'59）年に入って、会員の手持の書籍のリストを作り、相互に融通し合って効率を高めようではないかという話が持ち上り、洋販にその仲介の労を取って頂くという方向へ進んでいった。幸い洋販もこの仲介役の引き受けを承諾し、同社を中心に一応の案がまとまり、同年7月23日の懇談会の席上で検討された。それを同日付のJBJA No. 82で次のように知らせている。

記

会員相互の在庫品消化の件は、各地で余分の御手持品を日本洋販の手を経て相互に交換する案で、取りあえず下記の通り実施する事に致しましたから何卒御協力願います。

- (1) 販売御希望品をAとBに分けて、所定のForm（追面洋販より御案内申し上げます）に記入洋販に送りますと、毎月締め切りにて書店の名前は入れずにリストを作製し会員に送りますから、御希望者は洋販へ御注文下されば宜しい（洋販手数料として正味の5%を販売者が支払う）。
- (2) Aは新本同格品とする。
- (3) Bは汚損、き損品とする。
- (4) 第1回は8月31日締め切り、9月中旬にリストが作られます。（以上）

この案は更に検討を加えられ、8月10日付で洋販より次のような通知が協会会員宛に配布された。

記

会員相互の在庫品消化について

去る7月23日の洋書輸入協会懇談会で決定致しましたように、会員相互の在庫品の消化を計るため、弊社がそのお世話をさせて頂くことになりました。つきましては、在庫品リスト作製のためのカードをお送り致しますから、下記の要領で記入し、今月末日までに弊社営業部宛お送り下さい。——以下略——

9月中旬には、このようにして作られたリストに、JBJA Book Newsと名付けられ予定通り配布された。更にこのニュースの2号、3号が作製配布され、在庫品の消化が進行するが、残念なことにこのニュースへの資料の提供、その利用共に急激に減少し、世話役の洋販が遂にニュースが作れなくなり、中止の止むなきに至った。

多年の懸案であり、洋販の好意に基づく労力提供によって始めて可能となったこの「会員相互の在庫品消化」は、会員の歓迎を受けて発足したが、理想と現実とは隔たりがあり、成功とはいえない結果に終わったことは残念至極なことであった。

75.2 ベルナール氏逝去

昭和35（'60）年1月18日付のJBJA号外で、ベルナール氏逝去を次のように伝えている。

記

M. Henri Bernard 逝去のお知らせ

Centre du Livre FrancaisのMonsieur Henri Bernardが去る1月2日急逝せられ、1月4日聖母病院Chapelにおいて告別式が営まれました。

氏が戦後約10年間、m. L. F.を通じ仏蘭西書輸入に尽力された功績に対し感謝すると共に、深く哀悼の意を表する次第です。理事会では4日の告別式に参列し、又別紙の通りm. L. F.及びC. I. L.に対し弔慰文を送りました。（別紙省略）

今後のことについては、近く後任の方と協議することになっています。（以上）

ベルナール氏は、前年11月6日の理事会に、ロブロー夫人や大島氏と共に出席し、来年（昭和35年）10月頃にフランス雑誌の展示会をやりたい、については、フランスのサンディカより雑誌700~1,000点を各4~5部づつ、宣伝物を添えて送る、場所と費用の問題は、これこれと、大きな企画を持ち込まれたばかりであり、その急逝は大きな驚きをもって迎えられた。そして同氏の逝去によりCentreは程なく閉鎖の事態に立ち至る。その経過については項を改めて記述したい。

75.3 東大への納入手数料、20%の壁を破る

東大には、永年の間ノミナル・レートに20%以上の手数料を上乗せして納入してはいけないという不文律があった。これがフランス・フランの大幅切り下げや諸物価の高騰を契機にして、昭和34（'59）10月から11月にかけて、フランス・フランに関しては20%を越える手数料の上乗せが認められることになった。なおこの20%の壁とは、規定ではなく、不文律であったものと聞いている。

（続く）

[附] 写真一葉次ページに掲載

うちの会社は今 —文化をつちかって123年— 丸善株式会社

1869年（明治2年）の創業以来、出版物を通して日本の近代化と共に歩んできた丸善には「本」をめぐるエピソードは多い。明治35-39年の“Encyclopaedia Britannica” 5,500セットという驚異的販売、「ゲーテンベルグ聖書」の落札など枚挙にいとまがない。

しかしなんといっても丸善123年の歴史で頂点に立つ事業は、数年前から強力に進めている「国立国会図書館明治刊本マイクロ化」であろう。スロー・ファイアーと呼ばれる酸性紙問題への政策は世界的な課題であるが、国会図書館所蔵明治刊本叢書16万冊、マイクロ・フィルムで15,536リールという規模は世界でも類例のない大プロジェクトである。

更に引続いて、「岡山大学所蔵・池田家文庫マイクロ版集成」及び「東北大学所蔵・狩野文庫マイクロ版集

成」の事業を推進している。この他にも「シェイクスピア文献集成」や「日本占領」など着実な事業実績を挙げている戦略的商品であるが、ここでも一つ「語学辞書」への取組みを特に付け加えたい。英米独仏などの代表的辞書の多くを総代理店として取扱い、その実績で「辞書の丸善」という定評を築いた商品群である。取引先（仕入先、顧客）との関係、市場性の把握、販売戦術などが適切に噛み合って成功を見たものであるが、なにをおいても辞書に対する長年の執念が実を結んだ成果である。

丸善の社歌に「丸善、文化の開港」という一節がある。学術文化発展への寄与を踏まえた営業展開こそが、123年連続と流れている「うちの会社」の思想の一つであるといえる。



昭和34（1959）年9月14日洋書輸入協会懇親旅行にて
於、栃木県川治温泉柏屋ホテル別館

秋の釣り

9月以来毎週末決ったように天気がかずれ、せっかくの休日を屋内で過ごす日が続きましたが、釣行を予定した10月19日は、幸い薄曇りながら風もなく穏やかな釣り日和となり、腕を撫していた面々例年のごとく三浦半島の走水港に全員定刻前に集合、久し振りの釣行にはやる気持ちを押さえながら船中釣り支度、船が漁場につくや、船頭の“いよいよー”の声に、一斉に仕掛けを海の中に投げ入れ魚信のくるのをまちましたが、一向に当りがなく、船頭も船をあちこちと動かしましたが魚に嫌われたか、3時過ぎまでかかって、本命の鰯は最高で8匹（洋販 今井氏）、それも15センチ前後の小型ばかりでした。ただし、外道は多彩で、船中2匹のイナダ（日ソ図書 斉藤氏、太陽図書 小松氏）のほか、カサゴ、メバル等なんとかお土産は出来たようです。

本命の鰯があまりにも惨憺たるありさまでしたので、今回は成績は省略させていただきます。

(MT 記)

第25回麻雀大会熱戦記

(1991.10.25)

JBIA 麻雀大会のモットーは、“賭けない、投げない、インフレルールしない”の3ない主義だが、それに対しての是非論を良く聞く。スリルが無くて詰らぬという人もあり、ゲームの本質を守っていて良いという人もある。麻雀がギャンブルかゲームか、主婦の敵か主婦の友かという争いである。

しかしそういう事とは関わりなく、一旦卓を囲めば闘争本能が沸き立ち、実力だけではどうしようもない麻雀の面白さに時を忘れる。

今回は、32名の多数参加の中、大洋交易・和田社長が見事に逆転優勝を決めた。惜しかったのは、丸善・小杉氏。2回戦で、国士無双の13面待ちを上がって、断トツの成績で3回戦の第1卓へ進んだ。（第1卓には、1回戦・2回戦のトータル成績上位4名が駒を進める）が、和田氏の好調さに逆転を許してしまい準優勝に留まった。

3位は、本郷雀鬼会の強豪、金木氏（原書店）。久々の実力発揮。着実に点数を稼いだ和田氏（日ソ図書）の4位、上原氏（友隣社）の5位は立派。

1回戦で注目を集めた丸善・関根取締役と紀伊國屋・池田専務の対決は、小差で関根氏の勝ち。関根氏はその後も堅実に戦い7位に入賞した。池田氏は、倍満を2回上がる豪腕振りだったが、失点多く、無念の22位。第22、23回連続優勝の原氏（紀伊國屋）も今回は不調で、28位に沈んだ。

最下位は、優勝者を出した大洋交易の塚本氏。普段、やる時は、和田氏とは勝ったり負けたりする由。

麻雀は、実力だけではないという証拠であろう。和田氏によると、オセロ・ゲームのルールなら、頭と最後を取ったのだから今回は大洋交易の総取りの由

(E. A. 記)

海外ニュース

1990年米国書出版点数が17.2%ダウン

1990年1年間の米国書の出版点数が急減した。R. R. Bowker 社が Library of Congress の協力を得て集計したデータによると、総点数は44,218タイトルで1989年の53,446タイトルと比べ、17.25%減少し、これはこの20年間で最大の減少率となっている。1987年には56,027タイトルの最高記録を記録した後は連続してダウンしており、1990年実績はほぼ10年続いた5万タイトルのラインを割り込んだ。1991年については8月末までのタイトル数からみて最終的には46,000から、48,000タイトルの間に落ち着くものと予測されている。

—P.W. 9月6日号から抜粋—

—(株)紀伊國屋書店提供—

総代理店ご案内

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

Tel (03) 3291-4541

Fax (03) 3293-3484

UCL Press Ltd. (U. K.) ストックリスト
(Universty College London Press)

代理店業務停止のお知らせ

The Bristol Press (U. K.)

Butterworths & Co. (Publishers) Ltd. (U. K.)

Multilingual Matters Ltd. (U. K.)

Pergamon Press (U. K.)

Vision Press Ltd. (U. K.)

お茶の水の橋とニコライ堂〔4〕 ニコライの栄光と苦悩

丸善・本の図書館 鈴木 陽二

グローヴニンが『日本幽囚記』で綴った虜囚体験の中で、日本人についての好意に満ちた記述はヨーロッパ各国で日本への認識を大いに深めることになった。その頃ペテルブルグ神学大学に学んでいたニコライ（聖職名で、本名はIoan Dimitrovich Kasatkin）は、この本に魅せられ日本へ熱い思いを募らせていた。1856年（安政3年）には日露和親条約が批准されて第2の開国となり、初代領事ゴスケウィッチ（Iosif Antonovich Goskevich）が箱館に赴任する。そして1861年（文久1）ニコライは遂に領事館付司祭として憧れの日本にやってくる。

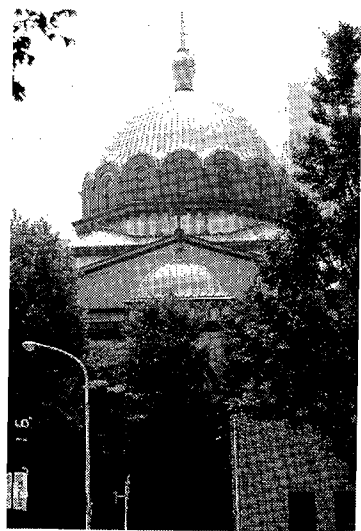
さて、ニコライが来日した時代は勿論まだキリシタン禁制下にあって布教活動はできなかったもので、とりあえず日本語や日本について研究をしながら将来に備えることになった。そういう中でも1868年（慶応4）には元土佐藩士で、一度はニコライを襲った沢辺琢磨が帰依して日本人として初めての改宗者となり、後に最初の司祭となって活躍するなど、信仰が徐々に広がっていく。明治5年領事館が公使館に昇格して東京に移転した折り、ニコライも上京して築地居留地で布教を始め、次いで駿河台に移りそこで「ニコライの露語学校」と呼ばれたロシア語塾を開く。一時はかなりの数の学生がいて、東京外語学校の教師となった鈴木が菟平や日魯漁業を興した川上俊彦なども在籍していたという。教勢が盛んになるに従って伝教のため正教神学校、正教女子神学校を開校して多くの司祭、伝道者やロシア文学者を送り出した。その中に昇曙夢や瀬沼夏葉などがいて、彼らによってロシア文学は原文からの直接訳が本格的におこなわれるようになった。

さて、「日本ハリスト正教会」と呼ばれるこの宗派が、日本のキリスト教の中でどんな位置にあったのか専門的な解説を試みることはできないが、一つの数字をあてると、明治34年には25,231名という信者が記録されており、カトリックの53,924名には及ばないものの、新教諸派に拮抗する数であったことを考えると予想外の多さに宗勢の浸透を想像できる。明治24年には駿河台にニコライ堂の竣工をみるが、毎月3,000～4,000名の信者が参拝に訪れる盛況であったという。ところで、正式名を「ハ

リスト復活大聖堂」というこのニコライ堂は、ロシアの美術家シュチュールポフが設計して日本近代建築の恩人であるコンドルが修正・完成し、工事は清水組が請け負った。本堂の高さは十字架の先端まで35メートル、鐘楼は40メートルを越し、駿河台の高台に屹立したその威容は東京市民を驚嘆させた。しかし関東大震災でこの鐘楼が本堂のドームに倒れ込んで破壊、焼失することになる。

明治24年来日したロシア皇太子傷害の天津事件で象徴されたように、日本人の心に潜んでいたロシアへの屈折した感情に加えて、満韓などをめぐる日露の確執はなおのことロシアに対する反感を生みだしていた。それが明治37年に勃発する日露戦争でロシアは敵国となり、反感が増幅してロシア正教は「露探」、つまりロシアのスパイの汚名まで被る。ニコライは日本国民として忠義の本分を尽くすよう教書をだし、「正教信徒戦時奉公会」を発足させるなどして戦争への協力でそれを乗り切ることになる。日本におけるロシア正教はまるで受難の歴史であったようだ。ロシアということだけで耐えなければならなかった圧迫、ロシア革命によるミッション中止、軍国主義への対応、戦後はアメリカの正教会やロシア母正教会との確執と和解などの波乱を刻んだ一世紀であった。

ニコライ堂は今もその美しく荘厳な姿で駿河台の象徴的景物となっている。思えばニコライが箱館に信仰の小さな火を灯してから布教に戦ってきて130年、彼の薫陶を受けた瀬沼夏葉が「恰も小き芥種の培養の如何によりて、遂には大になり、堅固なるに至る」と書いたように、ロシア正教は、今安定した教団となって平和な宗教的静謐を迎えているのであろう。



—— 全図版カラー印刷 ——

全5巻 刊行開始!

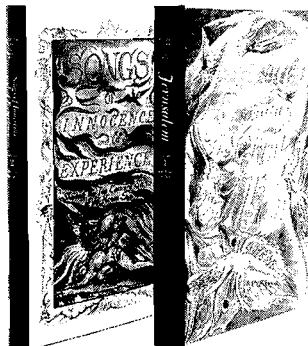
ウィリアム・ブレイク作品復刻全集

WILLIAM BLAKE'S ILLUMINATED BOOKS 5 Vols.

General Ed.: David Bindman (Univ. of London)

英国ロマン派詩人の先駆として知られ、自らの筆による幻想的・神秘的傾向をもつ水彩画・素描を加えた彩飾本を数多く残したウィリアム・ブレイク。その代表作品すべてを精密なカラー印刷で再現、さらに各図版の解説とテキストの注解を加えた初の全集です。

(1993年完結予定)



各巻明細 (全巻継続 注文番号 MSN: 91S0345)

Vol.1: Jerusalem.

Ed. by Morton D. Paley (Univ. of California, Berkeley)

'91. 288 p., 108 plates in full colour, 16 p. introduction and 160 p. 213×302mm.

Edited text with commentary on text and plates.

<好評発売中>

(注文番号 MBN: 9112282) 定価 ¥11,020

Vol.2: Songs of Innocence and of Experience.

Ed. by Andrew Lincoln (Univ. of London).

'91. 132 p., 81 colour plates, 48 p. intro., text and commentary.

<好評発売中>

(注文番号 MBN: 9112283) 定価 ¥8,740

Vol.3: All Religions are One/There is No Natural Religion/Thel.

Ed. by Robert Essick (Univ. of California, Riverside).

Marriage of Heaven and Hell/Visions of the Daughters of Albion.

Ed. by Morris Eaves (Univ. of Rochester).

'92. 128 p., 76 colour plates, 48 p. intro., text and commentary.

(注文番号 MBN: 9112284) <価格未定>

Vol.4: America/Europe.

Ed. by David Worrell.

Songs of Los/Book of Urizen/Book of Ahania/Book of Los.

Ed. by Detlef Dörrbecker (Univ. of Trier).

'92. 148 p., 83 colour plates, 64 p. intro., text and commentary.

(注文番号 MBN: 9112285) <価格未定>

Vol.5: Milton a Poem.

Ed. by Morton D. Paley (Univ. of California).

'93. 116 p., 50 colour plates, 64 p. intro., text and commentary.

(注文番号 MBN: 9112286) <価格未定>

(The Tate Gallery in conjunction with the William Blake Trust, GBR)



日本総代理店

〔本社・日本橋店〕〒103 東京都中央区日本橋 2-3-10 ☎(03)3272-7211 振替東京7-5番

支店・営業所—東京(お茶の水・丸の内・内幸町・浜松町・アークヒルズ・渋谷・錦糸町・北千住・取手・土浦・船橋)・千葉・八王子・松本・大宮・所沢・新潟/札幌・仙台・盛岡・郡山・筑波・水戸・横浜・静岡・浜松・名古屋・岐阜・三重・金沢・富山・福井・京都・滋賀・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・山口・福岡・長崎・鹿児島・沖縄/ニューヨーク・シカゴ・ロンドン

1992年1月 通巻第296号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室

☎3271-6901 FAX.3271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル

☎371-5329